

## 献 げ る こ と ば

わたくしどもの敬愛して措くことのできない同僚であり、或は先輩である 文学博士 今井仙一教授の還暦にあたって、これを記念して、わが同志社法学会で編纂した論文集を、教授に捧げることができるようになったことは、わたくしどもにとって、まことに欣ばしいかぎりであり、また感謝にたえないところであります。

教授のこんにちまでの学問研究に打ち込まれた熱情とその功績は、強靱でかつ至高なものでありまして、この一篇の論文集を、お贈りすることだけをもってしては、これを現わすことのできないものではありませんが、わたくしどもは、この企てを通して、教授の真摯で、よどみのない長年の間の学究生活を、教授とともに祝い、教授とともに喜ぶの、よすがともと念ずるものであります。

教授は、純粹哲学の学究であられまして、わが同志社大学文学部哲学科の御出身で、御卒業いらい、ずっと母校の教壇に立たれてこられたのですが、戦後、法学部に席を移され、政治哲学および政治学史の科目を担当されることになりました。カントやヘーゲルなどの純粹哲学の分野を、深く探求してこられた知識と思索の基礎の上に立たれる教授の政治哲学の理論は、揺ぎのない重さを示し、わが法学部の誇りとする講座であるばかりでなく、学界において重視されている教授の学風でもあります。語学に堪能な教授は、旧きはもとより、新しきをも広く、かつ深く読破され、これらを絶えず取り入れ、また絶えず批判し、止るところのない、学問的に、つねに前進に前進を続けられています。

教授が、この還暦論文集の計画を耳にせられたとき、教授はこれを執拗に固辞されました。学問的に、前進に前進を続けられる教授には、「還暦」などということ、学問的に時期を画されたり、また過去への回顧に低徊するの場

合でもないことを強く意識しておられたことであつたらうとも想像されましたし、また学問に対する謙虚な教授のお気持は、学問的な記念の道標を、いかなるかたちにおいても打ち建てられることを、おそれられたのであつたかとも思われました。これらのことは、いずれも教授の学問的意欲が、つねに発展的で、瞬時も停滞を許さない生き生きとしたものであることを物語るものであつたかとも考えられました。けれども遂にこの企てを認めて下さつたことは、われわれのこうした微意を示す機会を与えられた大きなよろこびであります。

教授の業績は、別表にもありますように、著書、論文など、数々の立派な御勞作がありますが、それが評価は、わたくしのよくするところでもありませんし、またその場でもありません。ただ教授の深淵な思考は、発刊年六回の「同志社法学」と年一回の国際版「Doshisha Law Review」への毎号にわたる論文の御登載だけでは、発表しつくせない豊かさをもっておられることだけからしても、教授の学識とその意欲のほどが想像され、それは同時に、「同志社法学」の存在を重からしめているゆえんでもありますよう。

つねに、にこやかな教授は、わたくしどもに、たえずなごやかな雰囲気を与えられ、学問の話の場や会合の場を、ともに究め、ともに楽しむの意図の下に、同僚と語らい、後輩を導くの熱意をもって研究生生活を続けられていられますことは、まことに慶びにたえません。教授の御健康には、この上も一層の御留意を賜わりまして、教授のこれからの学究生活のますます御多幸あらんことを祈つてやみません。なおこの論文集に御執筆くださいました方々にも厚く御礼申し上げますとともに、この編纂に御努力をいただきました編集委員の皆さまにも心から感謝いたします。

昭和三十六年二月七日

同志社大学法学会評議員長

高 橋 貞 三